

登録コード	A2Y10200	開講年度	2026			
授業科目	農山村計画学				担当教員	内川 義行
英文授業名	Rural Planning					
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限	対象学生
講義室	農学部30番講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
教員内線電話:2470						
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2025アカリ					
	【2025年度以降カリキュラム対象】1.【教養・基礎学力】豊かな教養と農学分野における基礎学力が身についている。				農山村地域の現状を知り、そこでの課題の発見と対応に関する基礎的知識・技術を習得する	
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】農学分野の専門的な学識と技術が身についている。				農山村地域の現状を知り、そこでの課題の発見と対応に関する基礎的知識・技術を習得する	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生					
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース					
(4)授業の概要	農山村は、過疎化、高齢化など多くの問題を抱えているが、各地で新たな“村づくり”の活動が生まれている。そこでは、地域の資源の活用を目指し、積極的に生産形態を再編する試みも行われている。この講義では、今までの農山村集落の形成過程や土地利用を知ると共に、変貌しつつある状況を示し、今後の農山村整備と保全を含めた持続的あり方を考える。 なお主担当教員は、公務員技術職の実務経験を活かして講義を行う。					
(5)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 農村地域を考える前提としての「地球環境変動」 第3回 農村地域を考える前提としての「食料問題」 第4回 農村地域の持続可能性 第5回 農村計画と農村ガバナンス 第6回 農村土地利用計画論 第7回 農業構造と農地の再編 第8回 農業の生産基盤整備 第9回 農村地域の鳥獣害対策 第10回 農村地域の環境保全 第11回 農村景観の形成と保全 第12回 都市農村交流とグリーンツーリズム 第13回 農村地域の資源循環と再生可能エネルギー 第14回 コミュニティ計画 第15回 まとめ 最終レポート提示 第16回 授業アンケートの実施					
(6)自主学習の指針	教科書の各回に相当する章を事前に読み、引用文献等の紹介資料を確認する。					
(7)成績評価の基準	小レポートについては、（ ）課題の背景・目的を説明でき、（ ）課題への接近方法を適切に把握・実施しており、（ ）結果について適正な処理とまとめができ、さらに（ ）自らの見解を考察に既述できている。以上の、（ ）から（ ）を満たしていれば「かなり上にある」。三項目までできていれば「やや上にある」。二項目までは「水準にある」とする。					
(8)事前事後学習の内容	教科書の各回に相当する章を事前に読み、内容を把握しておくこと。 また講義終了後は、e-ALPSに当日のパワーポイント資料を掲載するので、読み返し復習する。					
(9)テストやレポートの予定	各回終了時に小レポート、および最終回には最終レポートを課す。 1)講義内容の概要を理解した、2)示された現況の具体的課題を認識できた、3)これら課題に対して示された対応策について理解した、4)その上で自らの見解を提示できている、の全てが達せられている場合は「卓越している」、1)～3)の項目を満たしていれば「かなり上にある」、2項目までならば「ややうえにある」、1項目であれば「その水準にある」と評価する。					
(10)成績評価の方法	各回の小レポートと最終レポートによる。					
(11)質問、相談への対応および連絡先	内川研究室(内線2470)で対応する。					
(12)履修上の注意	「農村整備学」「農村整備演習」と併せて受講することが望ましい。					
【教科書】	指定しない(参考書を用いる)					
【参考書】	「農村地域計画学」渡邊紹裕他(朝倉書店)					